

令和7年度第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和7年10月22日（水） 10:00～12:00

場所：高知共済会館 3階 「藤」

出席：部会員10人中、7名が出席

議事：（1） 高知県産業別若者所得向上検討チーム＜宿泊業・旅行業＞について

（2） 第5期産業振興計画＜観光分野＞の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性について

議事（1）及び議事（2）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

（1） 高知県産業別若者所得向上検討チーム＜宿泊業・旅行業＞について

（2） 第5期産業振興計画＜観光分野＞の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性について

（森部会員）

- ・関西圏との連携について、これまでの関西戦略の中でも、大阪・関西万博と連携した高知県への誘客という話があった。大阪・関西万博についてのふりかえりはどうか。
- ・大阪・関西万博の大屋根リングについて、木材の申請をしていたと思うがその状況を教えてほしい。愛媛県は全国植樹祭での利用を、石川県は仮設住宅での利活用という話があると聞いている。
- ・関西圏の関係者と意見交換をしていると、既にIRの開設に向けた話を進めており、観光振興の目玉と考えているようである。高知県としては、どのように連携しようとしているのか。
- ・チャーター便については、台湾の定期便化のほか、韓国、香港との動きもある。これら以外のエリアに向けた動きが何かあるのか。今後、国際便ターミナルが新設される予定であるが、どれだけのキャパシティになるとを考えているのか。キャパシティに限りがあるのであれば、どこに資源を集中させるかということを考えなければならない。台湾、韓国、香港については、既に四国でも多くの便があるため、四国の中で取り合うのではなく、四国4県で話し合いをして棲み分けができるのか（例えば、インド直行便があるのは高知のみというように）。
- ・人材確保についても、受入態勢を整える必要がある。様々な施策が考えられるが、土佐経済同友会では龍馬パスポートの活用についての意見があった。龍馬パスポートは約30万人の登録者があり、その約8割が県外の人である。ステージアップのためには何度も高知を訪れる必要があるため、龍馬パスポートのヘビーユーザーは高知県への移住予備軍と言え

るのではないか。沖縄県では、リゾートバイトの活用により、人口は増えていないが働き手が多いという事例を聞いたことがある。龍馬パスポートは、そのようなことをするためのツールとして使えるのではないか。龍馬パスポートをデジタル化し、観光客の情報を収集して活用することは可能であると聞いている。規約上難しいというのであれば、規約の改正まで踏み込んで、こちらからプッシュ型で移住などの情報を提供するなど、約30万人のデータがある状況を何か活用できないか。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・大阪・関西万博に行ったお客様がそのまま高知県に来たという事例については、限定的であったと考えている。四国全体で見てもそのような動きは顕著ではなかったと聞いている。ただし、我々としては、大阪・関西万博の先のIRを見据え、大阪観光局との連携もしながら、関西圏経由で高知県に来てもらう取組を続けてきたところ。IR開業に向け、海外の視線も大阪に向くと思うので、この流れは止めずに「極上の田舎」を更にPRしていく。また、個人旅行の流れが強くなっていることから、「どっぷり高知旅キャンペーン」における体験メニューについては、OTAサイトにしっかりと掲載して、海外に向けた発信をすることにより、旅マエで高知の情報を届けていくような取組を強化していきたい。
- ・大阪・関西万博の大屋根リング木材については、第1次、第2次募集の段階では木材がまだ入手できていない状況。大阪観光局とも協議をしており、第3次募集に向けて手を挙げているところ。万博に協力した民間企業、大阪府市、能登半島の復興や愛媛県の植樹祭などへの提供がなされるという話は聞いている。
- ・IRについては、関西圏との連携を引き続き行っていきたい。
- ・台湾チャーター便については来年3月までは継続する予定である。台湾便は搭乗率も90%程度を継続しているので、来年度は増便も視野にセールスを継続する。韓国については、アシアナ航空と大韓航空が合併することもあり、LCCがどのように統合されるのか注視している。高松ではシンエアーとエアソウルで1日2便運航しているが、欠便も発生していると聞いている。高松便のうちの1便を高知に回してもらえないかという狙いも持ちながらセールスを強化していく。香港についてもセールスを行っている。キャパシティについては、毎日7路線から1便程度ずつであれば対応できるため、東南アジアも含めてセールスを行っていきたい。四国内での連携についても、高知県の方から提案もしながら進めていきたい。

(高知県観光コンベンション協会鍵山専務)

- ・龍馬パスポートについては、現在はデジタル化はされていない。スタンプをアナログで集める楽しみがあるため、毎年約1万人以上の新規登録者がいる状況。デジタルに移行することによる利点もあるのだとは思うが、費用面も考慮し、もう少しアナログの状況を続けたいと考えている。30万人の登録者のデータの活用については、シルバー、ゴールド等のヘビーユーザーに絞って何かできないかというような検討は今後も続けていく。

(森部会員)

- ・龍馬パスポートは、スタンプを実際に押す楽しみはあるので、アナログは残すべきであり、

アナログとデジタルを併用することにより、利用者の分析や参画施設へのフィードバックができるのではないか。何より、こちらからプッシュ型で情報を流せるような仕組みができたらよい。観光だけでなく、移住による人口増加にもつながると考えている。

(黒笹部会員)

- ・内閣府の事業で「食の熱中小学校」というのがある。交通費等の負担が大きいが、相当高いリピート率となっている。これまで高知県では、幡多地域、中土佐、須崎及び高知で2泊3日の開催実績がある。今年度は3月に北川村で開催することが決まっている。高知ツアーアーは大変人気があるということで、本部からの依頼を基に私が受け入れをしている。参加者の約90%が女性で中年が多い。ツアーと合わせて高知市内で観光を行うこともある。先日は横倉山で案内付きのツアーを開催した。ガイドによる案内もあったのだが、植物、鳥などを総合的に案内して欲しかったのだが、そのガイドは鳥についてはよく分かっていなかつた。ガイドごとに得意分野が異なるのではなく、総合力のあるガイドとなるよう、既存のガイドのスキルアップに向けた取組をしてもらいたい。

越知町のスノーピークキャンプ場で実施したときは、佐川町の「ダゼロ」の料理人にコース料理を用意してもらったのだが、大変評判が良かった。「ダゼロ」の料金だけでツアー料金の2万円を占めていたため、客単価も上げることができた。

- ・関係人口をいかに増やすかというのがこれからの中の課題である。高知県との関係人口というよりは、越知町や宿毛市などもっとローカルな関係人口づくりを意識して、県が主導してはどうか。こうした取組が最終的に移住や地産外商につながるのではないか。
- ・これはインバウンドも同じことが言える。体験が付いていないとインバウンドはスイッチが入らない。今はスマホがあれば言葉の問題はほとんどなくなってきたので、インバウンドに対するハードルが低くなっている。インバウンドを切り分けて考えるのではなく、日本人と同じように考えるべきである。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・個人旅行が重要という点や、「高単価」、「インバウンド」など非常に参考になるご意見をいただけた。ツアーの詳細について、また教えていただきたい。「どっぷり高知旅キャンペーン」において目指していく方向性とも一致している。

(黒笹部会員)

- ・ツアーについては動画付きでまとめられているので、また情報提供する。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・ガイドの養成についても、これまでガイドを増やす取組を進めてきたところあるが、更に踏み込んで、総合的な力をつけていきたい。観光客に感動を与えるのがガイドだと思うので、時間がかかるかもしれないが地道に続けていきたい。

(黒笹部会員)

- ・ガイドについては、各ジャンルの専門家が既にいるので、そのような専門家を起用した上で、従前のガイドを同行させて知識を仕入れてもらうというやり方が考えられる。

(三井部会員)

- ・OM07のインバウンドにガイドをしたときに、「サムライ」の紹介をしてもらいたいという要望があり、大川筋武家屋敷資料館、龍馬の生まれたまち記念館、高知城、三翠園の長屋に行ったのだが、タクシーの運転手が大川筋武家屋敷資料館がわからなかったり、行っても誰もおらず、入り口のふすまも破れており、非常にもったいなく感じた。また、高知城についても、クルーズ船が来たときには特にトイレにゴミが放置されていたりするので、掃除の回数を増やすなどしてもらいたい。はりまや橋も汚れており、欄干の手すりの色が黒色というのも暗い感じがする。
- ・クルーズ船の観光客に対してアンケートを実施しているのではないかと思うが、そのフィードバックがされていないのではないか。
- ・アンパンマン電車と列車の接続ダイヤについて、とさでん交通のホームページに掲載してもらった。もっと多くの方にそのことを知ってもらいたい。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・「サムライ」関係のガイドも今後増えていくかもしれないので、今後も情報提供をお願いしたい。大川筋武家屋敷資料館等の要望については、改善の余地があるということで、所管するところに情報提供する。
- ・クルーズ船のアンケートについては、我々が実施しているものだけでなく港湾振興課が実施しているものもあるので、情報を共有するようにしたい。
- ・アンパンマンの件については、権利の関係もあり、我々も何度かJRと話をしているが、ストレートな返事がいただけていない状況もある。引き続きトライはしていきたいと思っている。

(町田部会員)

- ・私は居合い体験のお手伝いをしているが、そこで週3回の相撲体験をしている。インバウンドのみが対象で、それでも週3の営業で売上は月2,000万円を超えている。インバウンドは「日本」に来ていると考えるので、ディープな体験だけでなく、わかりやすい日本の文化体験を求めている。高知でもインバウンドに向けたことがもっとできることがあるのでないか。
- ・若者の人材確保について、私も百貨店での高知県フェアに参加しており、高知の食材を使った飲食店であったり、セレクトショップなど様々な形態で行っている。そこでは、普段は飲食店でシェフをしている方にアルバイトで来てもらったりしている。本人が働きたい時間に来てもらうようにしているだけでなく、本人がどういうポジションで何をやりたいのかを重視しているため、スタッフにも活気があり、通常の3倍から4倍ほどの売上のこともある。雇う側が本人のやりたいことに丁寧に向き合うことで、給料以外の面でもできることがあるのでないかと思う。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・インバウンド向けどっぷり観光商品というのを造成、PRしていく。一方で、インバウンドの方は「ザ・ジャパン」の文化や食などに興味を持っているということを意識しながら商品を作り、それをしっかりと案内できるガイドやインストラクターを巻き込み、高価格帯商品の造成について1つからでもトライしていきたい。
- ・若者的人材確保についても、今後もそのような情報を教えてもらいながら、できることから取り組んでいきたい。

(鎌倉部会員)

- ・テレビ番組の「満点☆青空レストラン」のようなことが高知でもできないかと以前の部会で話したと思うが、黒笹部会員が話された食の熱中小学校のツアーというのはまさにそれに近く、素晴らしいと感じた。高知は食材の宝庫であって潜在能力はとても高いところだと思うので、是非県も関わって広げていってもらえたと思う。
- ・テレビで、岐阜県の苗木城跡という今はもう建物などは残っていない山城跡に連日外国人がたくさん来ていて、地元の人も驚いている様子が放送されていた。どうやらそれは、日本に旅行に訪れる外国人がよく見る「JAPAN」という本に苗木城跡が紹介されたかららしい。県として外国からインフルエンサーを呼んでPRしてもらうということはよくやっていると思うが、インバウンドの増加に向けて、このJAPANという本に掲載してもらうような取り組みをしてみるのはどうか。
- ・これまたある日放送されたテレビ番組の「開運!なんでも鑑定団」で、香月泰男という作家の作品が紹介されて、その絵に心惹かれ、後に調べると山口県に香月泰男美術館というものがあることがわかった。実は2年前にバイクで山口県に行ったのだが、その時はその情報を知らず、大変もったいないことをした。県外にツーリングに行くときは、ルート上にどのような観光地があるかを事前にインターネットで調べて行くのであるが、その際は「おすすめ観光地20選」といったようなサイトを参考にしている。行政等の公式サイトには確かに情報はたくさん載っているが、メリハリがなく探しにくい面がある。県内に複数ある小規模ながら素敵な美術館や博物館、文学館の情報も是非載せてほしいし、行政として順位付けするのは難しいと思うので、いくつかをグループでまとめて、例えばダイヤモンドクロスやだるま夕日であれば「運が良ければ観れる!」といったように、それぞれにキャッチーな小見出しを付けるなどしてはどうか。
- ・国民文化祭については、先進県の状況からすると、国民文化祭目当てに他県から人が訪れるということはあまりないようである。ただし、高知県では26の全国大会が開催されるため、それへの出場者とその家族が高知を訪れることとなる。こうした人たちが大会に出演するだけで帰ることなく観光もしてもらうよう、ターゲットを絞ってPRした方がいいと思う。また、近年開催された石川、岐阜、長崎では、駅前などに少しのぼり旗が立っている程度で何とも寂しい状況だった。来年の高知での国民文化祭には高知県民も期待していると思うし、普段観光サイドがのぼり旗を立てているところを、その期間は国民文化祭に譲るなどして、県全体での盛り上げを演出してもらいたい。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・嶺北地域では、一棟貸しの宿泊施設などにおいてインバウンドが着実に増えている。今年度も、国際観光課が10地点程度で聞き取りをしているが、中山間地域にかなり外国人が来ているようである。地域観光課が聞き取りをしたところ、嶺北地域の宿泊施設だけでも、その半分程度が外国人とのこと。これらは、「極上の田舎」というのが外国人にも着実に広がっており、関西戦略でこれまで取り組んできたことが、少しづつ成果につながっているのではないかと感じている。今後は、食にもスポットを当てるとともに、中山間地域での過ごし方について深掘りしながら商品開発をしていきたい。
- ・国民文化祭については、先日行われた産振本部会議において、知事の方からも国民文化祭を軸に取り組むよう話があり、国民文化祭の開催中には、観光サイドとしても、国民文化祭に訪れた人に対して、高知の食やどっぷり高知旅の観光商品に触れていただくような取組を実施すると報告をしたところである。しかし、知事からは、もう1つ踏み込んだことができないかと言われている。高知の文化（おきやく、食、よさこい）にスポットを当て何かできないか、今までに考えているところである。また何か皆様からご意見があれば教えていただきたい。

(樋口部会員)

- ・今は団体旅行から個人旅行への流れがあり、個人旅行ではバスよりもレンタカーという人が増えている。県内の貸切バスの台数も減ってきており、とさでん交通でもコロナ前より10台以上減っているが、こうした中で、クルーズ船対応等団体バスが必要な場面も増えていることから、バスを増やしていくと考えている。路線バスには向かない一時的な需要の場面でも活躍できると思うので、団体バスの需要を回復させるような取組をお願いしたい。
- ・観光部局としては県外から観光客を呼ぶことがメインであり、県民が県外に旅行に行くことに対する支援はあまりないのだと思うが、アウトバウンドや県民の県内旅行に対する支援（社員旅行（＝社員の福利厚生）に対する支援など）ができないか。こういう取組が業界の人材確保にもつながると思う。
- ・アンパンマンの路面電車については問い合わせが多い。また、ヌオーのラッピング電車についても評判が良く、契約期間を1年間延長した。これらについても、1つの観光素材になればよいと思う。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・インバウンドを考えるときにはアウトバウンドについても考える必要があるため、交通運輸政策課とも連携して、アウトバウンド商品を扱う県内事業者に向けたインセンティブが出せないかと考えている。そのような取組を通して、アウトバウンドの掘り起こしの取組をしていきたい。
- ・今年度から平日宿泊キャンペーンを実施しているほか、来年度以降は、県内企業に対して社員が平日に休暇を取得して家族で旅行するようなことを促すような取組を考えている。社員旅行において、どっぷり商品を提案することも考えていきたい。

- ・ヌオ一のラッピング電車だけでなく、ポケふたというマンホールの蓋を県内各地に設置している。そのような組み合わせにより我々もPRをしていきたい。

(三井部会員)

- ・今年度はクルーズ船が100隻以上来港しているが、来年度の状況を教えてもらいたい。
- ・お客様からの話で、松山城には手すりがあるが高知城には手すりがないという話があった。改善の余地があるのか。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・来年度のクルーズ船の来港については、それほど減少しない（100隻前後）と聞いている。今年は大阪・関西万博があったため大阪経由の便が多くだったので心配していたが、来年度はそれほど減少しない予定とのこと。もっと増やせないかという話もあるが、土木部と話したところでは、100隻くらいがキャパシティ的にも上限に近くなっている、宿毛港や須崎港などへの誘致も力を入れていきたいと聞いている。
- ・高知城の手すりについては、所管するところに情報提供するが、費用対効果の問題もあると思うので、歩くのが難しいお客様には高知城歴史博物館を案内するということになるかもしれない。

(黒笹部会員)

- ・最近は外国人の歩き遍路の方が増えていると思う。難しいかもしれないが、何らかの形で（消費額などの）データを収集して分析できないか。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・なんとかデータが取れないかお寺に聞いてみたりもしたが、難しい。一番最後の大窪寺では、歩き遍路の方が記帳をするため、「NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク」が数値を調べると聞いているが、それでも外国人の人数を全て把握するのは難しい。

(黒笹部会員)

- ・高知県だけで何かできないか。今は竹林寺が四国八十八箇所霊場会の会長をしている。この機会に、例えば竹林寺などの寄りやすいお寺で何かできないか考えてもらいたい（住職の海老塚さんに依頼する等）。

(高知県観光振興スポーツ部小西部長)

- ・また海老塚さんとも相談して検討していきたい。